



虹だより



令和7年度 虹のこころ保育園

暑い暑いと言いながら、やっと秋の空気に入れ変わってきました。しかしながら、モミジの葉が高温によって秋になる前に茶色になり、枯れてしまっているようで、「秋」と言う季語がなくなるのではないかと懸念されています。本来なら爽やかな秋。爽やかな空気の中で運動会が開催されることを願うばかりです。

さて、運動会の練習はと言うと、普段はふざけてしまう子も、「やる時はやるぞ」という雰囲気頑張っているようです。当日は暑いか寒いか分かりませんが、元気に参加してほしいと思います。

10月予定

- 6日(月) 頭髪検査
身体測定【幼児クラス】
- 10日(金) 運動会リハーサル
- 18日(土) 運動会
- 20日(月) 頭髪検査
身体測定【すみれ組】
- 21日(火) 身体測定【あじさい組】
- 22日(水) 身体測定【よつば組】
- 23日(木) かるがも親子ルーム
- 27日(月) 内科検診【0】
- 29日(水) お誕生会
園見学【午前・午後】
- 30日(木) 引き渡し避難訓練
- 31日(金) 園見学【午前】

10月教室

- 体操… 3、10、17、24、31日
- 英語… 21日
- 音楽… 7、14、16(木)、28日

第8回運動会

詳細は都度メール配信にてお知らせします。

送信したメールはお知らせボードに一括して張り出しますので再度ご確認ください。

ご不明な点がございましたら職員に声をお掛けください。



横断歩道のない道路の横断は危険です

9月10日(水)に交通安全指導がありました。

年に一度、ひまわり組以上の子どもたちが交通安全課の方が保育園に来てくださり交通ルールの指導をしています。交通事故で本人や家族が悲しい思いをしないよう、これからはしっかり学んでほしいと願っています。

保育園前の道路も横断歩道がありません。朝の忙しいときにサッと横断してしまえば簡単です。

でも「待って！」

子どもは見て体験して学びます。まして親に教わればそれが正しいと思うものです。

間違った学びが原因で命を落とすことの無いよう、何が正しいかを親御さんが手を取って教えてあげてください。



「イクメンプロジェクト」から「共育(ともいく)プロジェクト」へ

イクメンプロジェクト

厚生労働省が2010年「イクメンプロジェクト」を立ち上げ男性労働者が育児をより積極的に行うことや育児休業を気兼ねなく取得できるよう、社会的機運醸成を図ることを目的に広報事業として実施してきた。

しかし、育児休業取得期間や家事関連時間には男女間で大きな差があること、職場における男性の長時間労働が見直されていないといった課題は残ったまま。

共育プロジェクト

そのため、引き続き男性の育児休業の取得促進を図りながら、育児休業の取得を男女の家事・育児分担見直しの具体的な「きっかけ」とすること、男性の家事・育児参画を阻害している「長時間労働の是正」等に取り組んでいく「共育プロジェクト」にリニューアルされた。共働き・共育ての推進のため、「職場」や「家庭」におけるいわゆる「ワンオペ」の実態を変え、男女ともに誰もが希望に応じて仕事と家事・育児を両立し、「共に育てる」に取り組める社会を目指します。まだまだ普及啓発活動といった働きかけがメイン。

果たして社会にはどのように映っているのか。男性と女性の性は変わらず、普遍的な特性はあるものの、それ以外のところで、長く家父長制だった日本で、更にごのように変化して行くかが見どころだ。

朝日新聞の「耕論」に「イクメン」は子育てや社会の何を映し出していたのか、という記事が載っていた中で、

男性1は

子どもの世話をする姿を見て、問答無用にイクメンのレッテルを貼られ、ほめられる。そこには「そもそも男性は育児ができない」という偏見ともいえるような含みがある。子育てに積極的な男性ほど、会社の中で孤立しやすかったりもする。積極的な男性ほど、社会の中で孤立しやすい。

男性2は

女性の育児は価値を低く見積もられているのに、男性になったとたん経済的な意義が付与され、「選択」し取得能力になる。女性たちは選択すらできず育児により経済的な価値がいや応なしに削られ、男性の育児がその女性たちに依存していることは不可視化されてきた。厚生労働省が新たに掲げた「共育」が「もう男性は十分がんばっている」ではなく、ケアのネットワークそのものと、その中での男性の育児を充実させる方向に向かうことを願っている。

女性1は

ケアの「しんどい」部分は女性の責任にされたまま。日常的に子どもの様子を観察しながら「生活がうまくまわるように考える」ことまでやっている男性は少ないと思われる。子どもの様子がいつもと違っていたら、話を聞いて、取るべき対策を考える。こうした責任は女性の肩にのしかかっている。今後は「イクメン」ブームでは生まれなかった、男性が現在ケアに関わってきている中で、男性の育児を充実させる方向に向かうことを願う。

男女それぞれ言い分は果てしなくある中で、男女の特性を生かしながら、擦り付け合い等のない納得できる世の中になることを期待するところです。